

| | | |
|---|--|---|
| <p style="text-align: center;">日本古代技術史 (Ancient History Arts in Japan)</p> | <p style="text-align: center;">1年・後期・2単位・選択必修 3専攻共通・担当 大矢 良哲</p> | |
| | <p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A- 1 (75%) , B- 2 (25%)</p> | <p style="text-align: center;">〔JABEE 基準〕 (a) , (d-1)</p> |
| <p>〔講義の目的〕 本講座は、日本古代の先人たちの技術を、現代の科学・技術を学ぶ諸君にも認識してもらうところにねらいがある。講義では本校の恵まれた立地条件を生かし、「世界遺産」に登録された奈良や京都の文化遺産を訪ねて、実物を前にその構造や技法の見方、歴史上における位置づけなどを学んでいく。歴史や建築・彫刻・絵画・工芸などの分野に及ぶ本講座は、先人たちの心と技の素晴らしさを現代の科学の研究成果から見直す試みである。素晴らしい文化遺産を実見しながら、その鑑賞のポイントを知ったとき、ハイテク文明の中に生きている人たちもまた、先人たちの智恵と技に改めて驚かされるであろう。</p> <p>教育目標は、自国の技術・文化の学習を通じて、他民族や他国の文化についても理解を深めることができるようにすることである。</p> | | |
| <p>〔履修上の留意点〕 授業は教室での座学と臨地講義の2つの形態で実施する。このうち臨地講義は全日または半日の時間を要するため、授業日を振り替えて行うことがある。遅刻や見学時の私語は厳禁。</p> <p>拝観料（総額 4000 円ぐらい）と現地までの往復の交通費は、全額自己負担である。</p> | | |
| <p>〔到達目標〕 日本の文化がアジアとの交流で生み出されたことを理解し、各時代の文化の特徴を把握する。工学の立場から身近にある人類の世界遺産について理解を深める。</p> | | |
| <p>〔評価方法〕 本講座では、実物を見ること、またそれを前に説明を聞いて理解を深めるところに特色があるので、評価は、授業の参加度（出席および授業に臨む姿勢 70 点）を重視し、課題レポート（30 点）の点を加えたものとする。</p> <p>授業時間の 3 分の 2 以上の出席がない場合、成績評価の対象にならない。</p> | | |
| <p>〔教科書〕 プリント資料を配布する。</p> <p>〔参考文献〕 『奈良・京都の古寺めぐり』『奈良の寺々 古建築の見かた』（いずれも岩波ジュニア新書）などがあるので、現地見学に活用して下さい。</p> | | |

講義項目・内容

| 講義数 | 講義項目 | 講義内容 | 自己評価* |
|----------------------|-------------|--|-------|
| 第1講 | ガイダンス | 講義の総論と講義のすすめ方を説明する。 | |
| 第2講 | 天文と計時 | 古代日本人の科学知識について。飛鳥びとは宇宙をどう観たか、また時間をどのように考えていたか、キトラ古墳と水落遺跡の発掘成果をもとに考察する。 | |
| 第3講 | 正倉院と宝物 | 正倉院の宝庫と今年度の正倉院展出陳品について解説する。 | |
| 第4講 第5講 第6講 | 世界遺産 東大寺の技術 | 【臨地講義】(南大門・大仏殿・正倉院・奈良国立博物館) ～天平のテクノ・ルネサンス～ 大仏殿の大仏、蓮弁の仏世界図などを中心に、天平の建築、彫刻・絵画の技法、鎌倉復興期における南大門の新建築様式(大仏様)、仁王像や石獅子の技法などを解説。また、正倉院宝庫と奈良国立博物館で開催される「正倉院展」も見学する。 | |
| 第7講 第8講 第9講 | 世界遺産 平等院の技術 | 【臨地講義】(宇治上神社・平等院鳳翔館・鳳凰堂) ～浄土世界の空間構成と日本的木彫技法の完成～ 日本の建築美を代表する平等院鳳凰堂は、極楽浄土を描いた曼荼羅の中の仏殿を具現化したものと伝えられる。美しい宇治の歴史的景観のなかで、鳳凰堂の細部意匠、本尊の寄木技法、壁画の彩色顔料、作庭法を講義し、その建築空間の面白さを味わう。 | |
| 第10講 第11講 第12講 | 世界遺産 法隆寺の技術 | 【臨地講義】(西院伽藍・大宝蔵院・東院伽藍) ～大陸文化を越えて～ 五重塔や金堂・夢殿など古代建築の構造や美の秘密を詳解。秘仏の救世観音像をはじめ多数の美術品にふれ、法隆寺の大切さを認識する。 | |
| 第13講 第14講 | 世界遺産唐招提寺の技術 | 【臨地講義】(唐招提寺) ～古代美術の遥かなルーツ～ 唐招提寺の創建時より残る金堂・講堂を中心に見学。永劫の美に触れ、それらがどのような背景によって生みだされたか。渡海大師鑑真の偉業についても考察する。 | |
| 第15講 | 遣唐使の役割 | 最後に、異国の都で没した留学生「井真成」の墓誌を解読し、一人の留学生の生きた遣唐使の時代を紹介する。レポート提出。 | |

* 4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)